

3	大陸の形成	学習日 月 日	名前
---	--------------	------------	----

教科書 P8 ～ 要点ノート P14 ～

地球は1周4万キロの球体

表面積は約5.1億km²

陸地と海洋の面積比は29:71(およそ3:7)。

よって、陸地の面積は約(1)km²、海洋の面積が約(2)km²。

北半球 … 陸地が多い(陸地:海洋は39:61)

南半球 … 海洋が多い(陸地:海洋は19:81)

フランスのナント(パリの南西)付近を中心とした半球が最も陸地の割合が多くなる = 陸半球(49:51)

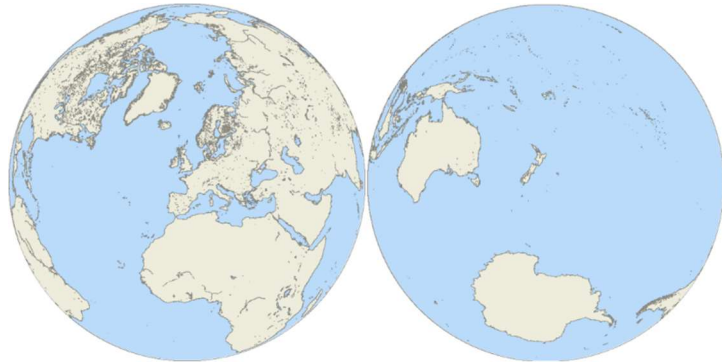
アンティポデーズ諸島(NZ南東)付近を中心とした半球が最も海洋の割合が多くなる = 水半球(10:90)

この2つの半球の中心は(3)の関係になる。

2億年前 地球には(4)という巨大大陸があった。

北半球の(5)大陸と南半球の(6)大陸

→ 移動・分裂し、現在の形になる。



1912年 (7)による大陸移動説

これにより、(8)が理論的に説明された。

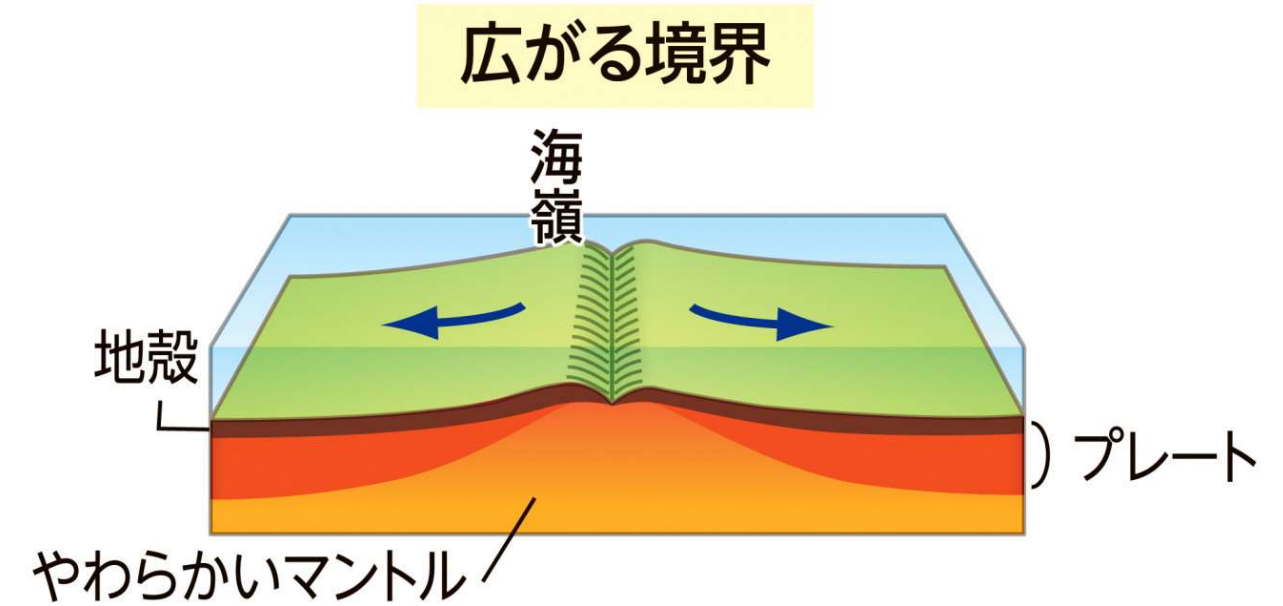


■ 古期造山帯
— 現在のおもな古期造山帯の山脈
[出所: 地球科学(1979)]

地球の表面は十数枚のプレートで構成されている。

それが(9)の対流によって移動し、現在の大陸分布や大山脈が形成された。

プレートとプレートがぶつかる場所を境界という。境界にはいくつかのパターンがある。



① 広がる境界

両側に海洋プレートが引っ張られている。ここではマグマが上昇し山脈が形成される。

この山脈が海底山脈 = (10)と呼ばれる。

広がる境界は陸上にもある

アイスランド … 大西洋中央海嶺上に位置している火山島。マグマを利用できるので、地熱発電が20%を超える。

アフリカ大地溝帯 … アフリカ東部でみられる大地溝帯。左右に引き裂かれている(今後切り離される)。

→ この影響で裂け目ができ、ここに断層湖ができる(タンガニーカ湖、マラウイ湖等)

→ ここでも火山がみられる。(キリマンジャロ山 = タンザニア、アフリカ最高峰 5895m や ケニア山 = ケニア、アフリカ第2 5199m)など

→ 紅海もアフリカ大地溝帯から連なる。